

平成25年(ワ)第38号

「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発事故原状回復等請求事件

原告 中島 孝 外

被告 国、東京電力株式会社

## 意見陳述書

2013(平成25)年9月10日

福島地方裁判所民事部 御中

原告：大橋 汐月



(原告番号 H-177)

### 1 事故前の生活について

2011年3月当時、私は家族と南相馬市小高区で暮らしていました。大熊町にある福島県立双葉翔陽高校に通う、高校2年生でした。

私は、自分の通っている高校と友達が大好きでした。特に女の子ばかり10人くらいのグループでいつも仲良くしていました。仲良しグループの子たちとは気が合って、同級生や学校の先生の噂話、好きな人の話など、いくら話をしても尽きることはありませんでした。震災と原発事故があったころは、ちょうど高校3年生に上

がるというころだったので、友達とは進路の話もよくしていました。私は、高校卒業後は大学か専門学校に進学して、将来は英語かヘアメイク関係の仕事につけたらいいなと漠然と考えていました。

朝起きて学校に行き、授業に出て、友達と遊び、家に帰ると家族がいる。平穩で、将来への期待に満ちていて、今振り返ってみると、本当にかげがえのない時間でした。

## 2 原発事故

2011年3月11日、私は友達と南相馬市原町区に遊びに行っており、そのまま震災に遭いました。母から電話で自宅が津波で流されてしまったと聞いたので、いったん一緒にいた友達の双葉町の家身を寄せ、その後川俣町の体育館に避難しました。

川俣町の体育館で家族と合流して話をしたところ、両親は、交通手段の算段がつき次第避難するのが当然という考えでした。私の父は原発で労働していた時期があり、原発で働くに当たって原発の仕組みや危険性などを勉強していました。その際得た知識から、原発で事故が起きた以上、漏れ出した放射性物質が人体に大変な悪影響を与えるのだということを知っており、これを私に話して聞かせました。

私自身は、小学校の社会科見学で原発は安全対策が万全なのでまったく心配いらないと聞かされており、事故が起きたことを知っても、まだそういった危険性についての認識を持つことができませんでした。しかし両親の強い説得により、私はいったん福島県外へ避難することに同意しました。

## 3 避難後の生活

### (1) 山梨から沖縄へ

3月15日に実父のいる山梨へ避難し、新学期になるのを待って、高校3年として公立高校に転入しました。山梨の高校の同級生はみな優しく、私を原発事故によ

って避難してきた子としてではなくごくふつうの転校生として扱ってくれ、すぐに友達もできました。

しかし、9月半ばくらいから、夜、眠れなくなってしまいました。原発事故を経験した自分と、同じ経験をしていないクラスメイトとの違いが明らかになってきたのです。山梨の高校の同級生は、高校三年生ということから、みんな進路について真剣に考えていました。私も原発事故前は進路について色々と考えていましたが、事故が起きたことによって、山梨の高校に転入した後も、進路や将来といったことを考えるように頭を切り換えることができませんでした。

10月くらいから精神的に本当に辛くなってしまい、実父や沖縄に避難した両親に相談した結果、両親のいる沖縄へ移ることにしました。

沖縄に移ってから通信制の高校を始め、そのまま2012年3月に通信制で高校を卒業しました。高校を卒業したという実感はありませんでした。

## (2) 双葉翔陽高校の卒業式

2012年3月1日、双葉翔陽高校の卒業式がありました。私は、会場の後ろの方で友達が卒業式に参列する姿を見ていました。原発事故がなければ、私も友達と一緒に卒業証書をもらっていたはずでした。

山梨の高校での約5ヶ月間は、私にとっては「本当の高校3年生」の時間ではありませんでした。原発事故がなければ、福島で、将来のことで悩んだり、希望をもったり、それを友達と分かち合ったり、高校生活の思い出をつくったりと、キラキラした時間を過ごせたはずでした。こんなはずじゃなかったという悔しい思いと怒りでいっぱいです。高校3年生の時間を返してもらいたいです。双葉翔陽高校生として卒業したかった、その思いが強すぎて、胸にぽっかりと穴が空いてしまったようでした。

## 4 福島に帰らない理由

原発事故後、ネットで情報を収集したり、放射性物質の研究者などの話を聞くうちに、放射性物質の危険性を理解するようになりました。放射性物質がどれだけ危険かわかった以上、もう福島に戻って暮らすことはできません。

しかしその一方で、福島の友達と話していると、みんなと福島にいたいと気持ちが揺れます。東京にいても、福島の報道がされるたびに帰りたいと思いきつくなります。

## 6 健康被害への不安、国・東電への思いなど

私は健康面で大きな不安があります。原発事故直後は、放射性物質に汚染されてしまった身体では結婚できないのかな、子どもも産めないのかな、と考えていました。今でも、子どもを産んだとしても奇形の子どもの生まれるのではと不安で仕方ありません。福島の友達ともよくそういった話をしています。がんのリスクのこともあります。

国や東電に対してなによりも言いたいのは、福島に戻れないなら戻れないと、はっきり言ってほしいということです。国や東電が情報を隠すから、今でも福島に戻れると思っている人や福島に留まっている人がたくさんいるのです。それで後になって健康被害が出たらどうするのでしょうか。福島に戻れないことについて、国や東電にきちんと責任を取ってほしいと思います。

以上